

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・12 vol.435

●発行者—理事長・学長 小川 彰 ●題字—大堀 勉



矢巾キャンパスで行われた企業研究セミナー

〈写真撮影：12月1日(土)、(関連記事：P5)〉

おもな内容

- 一巻頭 災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟新築工事の進捗状況
- 表彰の栄誉 西谷巖 名誉教授が「瑞宝小綬章」を受章しました
- トピックス スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業受入実習が行われました
- フリーページ 省エネ推進委員会だより～冬の節電対策について～

災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟 新築工事の進捗状況

本年4月に着工したマルチメディア教育研究棟の新築工事は、来年3月の完成に向けて順調な工事が行われています。

災害時地域医療支援教育センターが整備される本棟は「災害に強い建物」をコンセプトとしています。建物は免震構造であり、非常用発電機（300kVA）や大規模な無停電電源装置（100kVA）、単独受水槽・緊急排水槽設備、災害物資等の備蓄庫が整備され、災害時の活動拠点としてその役割が期待されます。また、センターでは「災害医学講座」と「災害・地域精神医学講座」を中心に、今後災害医療の実践教育・研究が展開されます。

11月末日までの進捗状況

建築工事は、4階部分までの躯体に係るコンクリート打設工事を実施し、建物の全体像が確認できるようになりました。また、建物内には飲料用水槽や建具（サッシ）等の搬入・取付が行われています。この他に発電機と冷温水発生機の燃料地下重油タンクの施工を開始し、今後発電機や無停電電源装置等の搬入・据付作業が順次行われる予定です。



災害時地域医療支援教育センター・マルチメディア教育研究棟外観<11月20日(火)南側から撮影>



飲料用水槽（矢印部）

災害時に給水が遮断された場合には、1日300人を目安として7日分を使用することができます。



免震装置（矢印部）

大規模地震を想定し、合計65箇所に設置された最先端の免震装置が建物全体を支えます。



地下重油タンクの設置基礎部分

災害時には燃料の補給なしで、熱源で最大7日、発電機で最大3日分の電源供給が可能となる共用のオイルタンク（15,000ℓ）を確保しています。

表彰の栄誉

西谷 岩 名誉教授が「瑞宝小綬章」を受章しました

本学名誉教授の西谷巖先生は、平成24年秋の叙勲において瑞宝小綬章を受章しました。

西谷先生は、昭和34年3月北海道大学医学部を卒業、医師実地修練を経て昭和35年4月同大大学院医学研究科外科系へ入学、婦人科腫瘍学を専攻され昭和39年3月医学博士号を取得されました。その後、同大医学部講師、同助教授等を経て、昭和55年7月本学医学部産婦人科学講座教授に就任、平成10年5月名誉教授の称号が授与されました。

西谷先生は、約18年にわたり本学産婦人科学講座を主宰し、医学教育・専門医の育成において卓越した指導力を發揮され、卒前・卒後教育の改革に大きく貢献されました。

研究面においては、組織的かつ継続的に実施される子宮癌検診体制の確立を目指し、有用な診断基準を実用化に結び付けるなど、産婦人科領域における癌研究・癌診療の発展に寄与する多くの知見は、国内外から高い評価を得ています。



解剖学講座発生生物・再生医学分野 原田 英光 教授が日本学術振興会から表彰を受けました



(左) 三浦歯学部長、(右) 原田教授

本学解剖学講座発生生物・再生医学分野の原田英光教授は、平成24年度科学研究費助成事業の審査委員を務め、その公平かつ公正な審査が称えられ日本学術振興会から表彰を受けました。

この表彰は、同事業の第一段審査（書面審査）において、特に模範となる審査意見を付した委員を表彰するもので、今年度は約5,000名の審査委員の中から原田教授をはじめ115名が表彰されました。

10月31日(水)には、歯学部棟4階会議室において日本学術振興会から贈呈された表彰状と記念楯の伝達式が行われ、三浦歯学部長から原田教授へ授与されました。

理事会報告

■10月定例（10月29日開催）

1. 医学部定員増及び学則変更認可申請について

地域の医師確保等の観点から、文部科学省より要請のあった地域枠の設置及び研究医の養成、歯学部の定員削減のスキームによる医学部入学定員の増加の取扱いについて、次のとおり増員することとして学則の変更認可申請を行うこととした。

(1) 増員数：5名（定員合計130名）

※地域枠の増設3名、歯学部の定員を減員し医学部定員（学士編入学）に振替2名

(2) 増員の期間：

平成25年度～平成31年度までの7年間（時限）

2. 総合移転整備計画策定委員会からの上申書について（県立療育センター及び県立盛岡となん支援学校の一体整備に係る用地について）

県立療育センター及び県立盛岡となん支援学校の一体整備に係る岩手県からの取組要請について、今後の総合移転整備計画の円滑かつ速やかな実現に向けて協議を続けていくこととした。

医学研究インターンシップ（研究実習）報告会が行われました

10月29日(月)・30日(火)の両日、矢巾キャンパスにおいて、医学部4年生による医学研究インターンシップ（研究実習）報告会が行われました。この研究実習は、座学では得られない科学的思考能力と解析検証能力の涵養を目的としているもので、実習の最終ステージとなる報告会では、学内外で体験した医学研究実習に基づく学生の研究内容が報告されます。

初日に行われた報告会では、1階ラウンジにおいて複数のグループに分かれてのポスター発表が行われ、担当教員・参加学生が評価を行い、活発な質疑応答がなされました。



スーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業受入実習が行われました

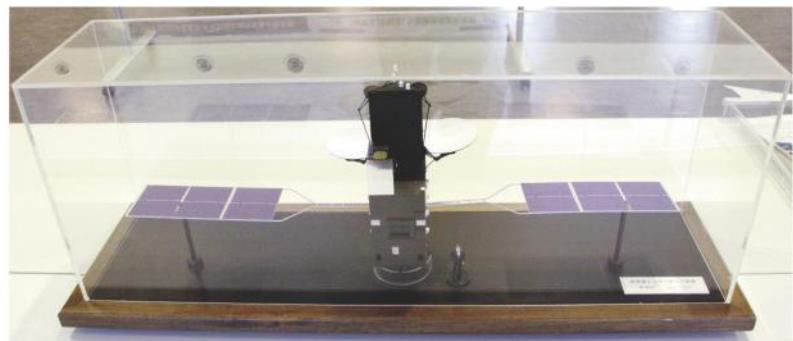
11月6日(火)、県立釜石高等学校の1年生35名がスーパー・サイエンス・ハイスクール（SSH）事業で矢巾キャンパスを訪れ、病理学講座先進機能病理学分野による実習が行われました。

実習では、病理検査の標本づくり体験や遠隔医療・遠隔病理診断の講義、ドクターヘリの施設見学が行われたほか、宇宙航空開発機構：JAXAの超高速インターネット衛星「きずな」の模型展示など、遠隔医療・災害医療分野における最先端機器のデモンストレーションが行われました。

参加した高校生は、目を輝かせて実習に参加しており、最先端の遠隔医療と遠隔病理診断を体験する貴重な機会となった様子でした。



病理検査の標本づくり体験の様子



超高速インターネット衛星「きずな」の模型展示

看護師特定能力養成調査試行事業実施課程の開講式を挙行しました



本学附属病院高度看護研修センターは、11月12日(月)より厚生労働省の試行事業である「看護師特定能力養成調査試行事業実施課程（皮膚・排泄ケア分野）」を開講する運びとなりました。同日午前11時からは、創立60周年記念館10階会議室において開講式が行われ、小川理事長、酒井病院長、藤岡高度看護研修センター長をはじめ関係者が出席しました。式では、藤岡センター長の式辞、小川理事長の挨拶に続いて、研修生を代表して千葉励子さん（左写真）から挨拶がありました。

今後同課程では、皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程で履修した基礎知識や技術を基盤とし、さらに高度な創傷管理に関する追加教育を2月8日まで実施します。

※看護師特定能力養成調査試行事業実施課程とは？

高い臨床実践能力を有する看護師の認証に必要な要件や特定行為等を検討する際に必要となる情報や実証的なデータを収集することを目的として、厚生労働省が実施する試行事業。

企業研究セミナーが行われました

12月1日(土)、矢巾キャンパス体育館において薬学部の学生を対象とした「企業研究セミナー」が開催されました。本格的な就職活動時期を迎える薬学部学生への就職支援最大イベントとして、平成22年度から行われています。

セミナーでは県内外の官公庁や医薬品メーカー、調剤薬局など100もの事業所ブースが設けられ、薬学部学生が各ブースを訪問して熱心に説明を受けました。

リクルートスーツに身を固め各ブースを訪問した学生は、真剣な眼差しで説明を聞き入り将来の仕事に対する意欲を高めている様子でした。



附属病院でクリスマスコンサートが行われました

12月1日(土)、午後2時から本学附属病院外来1階待合ロビーにおいてクリスマスコンサートが開かれ、入院患者さんやご家族など約200名が一足早いクリスマス気分を味わいました。

このコンサートは本学の学生管弦楽団と小児科病棟に入院中の盛岡青松支援学校の児童生徒によるもので、今年で18回目の開催となります。

学生扮するサンタクロースの指揮に合わせて「クリスマスフェスティバル」「ふるさと」などアンコール曲を含め計8曲が演奏されました。そのうち、「夢をあきらめないで」「Believe」は盛岡青松支援学校の児童生徒と合同で演奏され、病気と闘いながら、この日を目標に練習を重ねてきた成果が披露されました。

また、学生が児童生徒と患者さんの席を回ってキャンディーなどのささやかなクリスマスプレゼントを手渡し、心あたたまるコンサートとなりました。



○○○
投書箱から



院内に設置している投書箱に、来院された方からお手紙が寄せられましたのでご紹介します。(なお、紙面の都合により文面を一部省略しました。)

お見舞いのため
来院された
方から

先日、知人を見舞うため外科を訪ねて伺った際のことです。

病棟がたくさんあり、迷子になってあたりをキヨロキヨロしていたところ、それを察して一人の看護師さんが私に声をかけてくれました。

「右手が整形で、さらにその手前には看護師の詰所があり・・・」、さわやかな笑顔で誠に丁寧にご説明いただき、無事辿り着くことができました。また、新幹線にもぎりぎりではございましたが間に合うことができました。

御病院は県内一の高度な医療機関で大変立派な病院ですが、それにも増して素晴らしい人材の教育をされている病院であると感心して帰ってまいりました。

本当にありがとうございました。



シリーズ

職場めぐり

No.76



統合生理学分野は本年8月1日付けで、旧神経生理学分野と旧器官生理学分野が1つになった新しい分野です。矢巾キャンパス西研究棟に位置し、久保川学教授以下6名のスタッフにより構成されています。統合生理学の主旨は、人体機能の

縦割分担の壁を取り除くことがあります。神経や心臓などは個々の臓器のみで生存することは不可能であり、種々の器官が統合して一つの個体として生存しています。医科生理学を学習することの重要性はそこにあると考えています。研究面では主に腎・体液調節に係る尿細管機能や遺伝子導入による上皮膜輸送の分子メカニズムの解明を行っており、すでに日本生理学会から優秀論文賞等を受賞しています。さらに、神経細胞や神経シナプスの細胞内シグナル伝達の研究を行っており、今後、さらなる発展が期待されます。

分野としましては、まだ歩み始めたばかりですので、皆様の温かいご支援を賜りますようお願い申しあげます。

(准教授 木村 真吾)

日々、慌ただしい部署ですが、患者さんの安全を第1に考えより質の高い看護を提供できるよう努力しています。

(主任看護師 工藤 静子)



一 大学報原稿募集一

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務を感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数 500字～1,000字程度）

また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしています。事務局までご連絡ください。

連絡先 大学報事務局（企画部企画調整課）
内線7023 kikaku@j.iwate-med.ac.jp

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金 ~ 皆様のご厚志により支えられています ~

平成21年6月から始まりました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜わりますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は18回目の御芳名紹介です。(平成24年9月1日~平成24年10月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

<20,000,000円>

株式会社こづかたサービス(岩手県)
(受付順、敬称略)

個人等

<1,000,000円>

齋藤 順子(医31)

<御芳名のみ記載>

吉岡 邦浩(教職員)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区分	申込件数	募資金額(円)
圭陵会	454	329,972,000
在学生父母	188	115,040,000
役員・名誉教授	39	69,810,000
教職員	111	16,245,000
在学生	1	100,000
一般	111	390,192,922
合計	904	921,359,922

(平成24年10月31日現在)

第104回大学報編集委員会

日 時：平成24年12月13日(木) 午後4時～午後5時

出席委員：山崎 健、影山 雄太、齋野 朝幸、小山 薫、佐藤 仁、山尾 寿子、米澤 裕司、昆 由美子、鈴木 尚子、
武藤 千恵子、野里 三津子

省エネ推進委員会だより

～冬の節電対策について～

【今冬の電力需給と節電対策】

先般、今冬の電力需給見通しについて各電力会社より発表がありました。私達に電力を供給する東北電力では、「昨年度並みの厳冬としても節電に協力をして頂ければ、原子力の再稼動がない場合でも逼迫する状況にはならない。」という見通しを発表しています。この発表によれば、私達が節電に協力することで需給は比較的安定する見通しですから、今冬も節電に努めましょう。

冬の節電対策としてよく耳にするのが「ウォームビズ」ではないでしょうか。

ウォームビズは、「寒いときには着る」、「過度に暖房機器に頼らない」という原点に立返り、室温20℃でも快適なスタイルをいいます。

省エネ推進委員会がお勧めする「ウォームビズ」の取り組み

【衣】



機能性肌着の着用

機能性肌着は、着用することで服自体が発熱し体をあたためてくれます。

体の暖めかた

また、太い血管のある部分を重点的に温めることで体全体が温まり、冷え性などの改善にも役立ちます。

【食】



食材であたたまる

からだを内側からあたためる食材を食べましょう。根菜類、香味野菜、紅茶に代表される発酵食品の飲み物は、体の内側からあたためる効果があります。

鍋料理などであたたまる

煮込み料理、鍋料理などあたたかい料理であたためりましょう。ひとつの部屋に集まってみんなで食卓を囲めば、暖房費も節約できます。

【住】



太陽光の有効活用

日中は、カーテンやブラインドなどを開け太陽光を多く取り入れることで部屋をあたためることができます。

部屋の空気循環

天井近くに溜まるあたたかい空気を、扇風機やサーキュレーターを上に向けて回して循環させれば暖房効果がアップします。

行き過ぎた節電は健康被害を生じる恐れもあります。無理せず身近に出来るところから「ウォームビズ」を始めてみませんか。



参考資料：チャレンジ25キャンペーン「WARM BIZ」

今年の冬も節電のニュースが流れていて電力不足・停電などいろいろ不安を覚えてしまいます。去年、我が家はオール電化を考えていたのですが、東日本大震災が発生し停電による生活の不便さを痛感したのでオール電化は取りやめにすることにしました。安定した電気の供給は脱原発では難しい現実なのでしょうか。

(編集委員 野里 三津子)

岩手医科大学報 第435号

発行年月日 平成24年12月28日

編 集 岩手医科大学報編集委員会
事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1
TEL 019-651-5111 (内線7023)
FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印 刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7
TEL 019-623-4256
E-mail:office@kahoku-ipm.jp